

地域共生型福祉施設

やすらの里だより

2015年10月 No.4

発行者：やすらの里広報委員会

住み慣れた場所で最期まで

公益社団法人 京都府看護協会 天の橋立訪問看護ステーション

サテライトみのり 管理者 三宅 佳代子

「地域共生型福祉施設やすらの里」にサテライトみのりを開設し2年半になります。この間、地域の皆様や関係者の方々に支えられ、活動をしてきました。

訪問看護は、病气や障がいがあっても地域でその人らしく生活できることをサポートしています。対象者は、生まれてから亡くなるまで全年齢を対象に訪問しており、病气や症状は様々です。

当事業所の特徴は、理学療法士・作業療法士を配置している事です。在宅でのリハビリは、機能回復の視点より機能維持・介護負担軽減に重点を置いて実施しています。高齢の方が多く機能低下は避ける事が出来ませんが、少しでも緩やかに低下するよう援助します。また、寝たままでもお尻が2〜3cm上がるだけでオムツ交換の負担はわずかでも軽減します。その軽減が在宅療養の継続につながります。また、住宅改修の際に理学療法士が機能を評価し助言することで、本人・家族にとって有効な改修になります。

当事業所の特徴の2つ目は、在宅での看取りをサポートしている事です。「人生の最期を住み慣れた我が家で暮かえるために」と言う思いとともに訪問をしております。「畳の上で死にたい」「病院で管をたくさん入れられて死にたくない」と言うような声はよく耳にしますが、「弱っていき姿をみるには不安」「痛がったらどうするの...」「親戚にほったらかししているように言われぬか」等々様々な不安や悩みが出てきて、「家で看取るなんて無理だわ」「やっぱり病院の方が安心」と言うことになります。もちろんそれも一つの選択肢です。それでも、「人生最期の時を自宅で過ごしたい」というご本人の希望と、その気持ちを尊重してあげたいというご家族の思いがあるなら、その思いを大切に受け止め、最期まで安心して過ごせるよう出来る限りの支援をさせて頂いています。

今後も地域の皆様の健康増進と安心した療養生活が維持できるよう、様々な事業所との連携を密にしながら訪問看護を提供し続けたいと思っております。これからもよろしくお願ひ申し上げます。



◎最近のイベント◎

・加悦中学校よりお花を頂きました (8/4)

今年も加悦中学校の生徒さんから“福祉体験学習のお礼に”とお花を頂きました。2年生の皆さんが技術の実習で、種から蒔いて作ったマリーゴールドを120株も頂きました。そのうち50株は「やすらの里ガーデン」へ移植し、オレンジ色や黄色でガーデンが賑わいました。



・「与謝野舞組 爽龍隊」の演舞 (8/21)



与謝野町では唯一のよさこいチームである「与謝野舞組 爽龍隊」の皆さんに演舞を披露して頂きました。当日は中学生7名、小学生13名の総勢20名の皆さんに、爽龍隊の代表的な演舞である「祭園(さいえん)」をはじめ全5曲を披露して頂きました。間近で、そして初めて見るよさこいソーランの迫力にご利用者も圧倒され、演舞が終わるたびに惜しめない拍手を送っておられました。

・「移動映画館」がやってきました (8/30)

日本全国を巡回するバス型移動映画館がやすらの里へやってきました。なんでも、大型バスを改造し、空調の効いた車内で快適に映画観賞ができるとの事。今回上映されたのは『親鸞聖人』のアニメーション映画で、当日はあいにくの曇り空でしたが興味のある方々が足を運んで下さいました。



やすら苑

〈祝 敬老祝賀会〉

9月19日(土) 敬老祝賀会を開催しました。

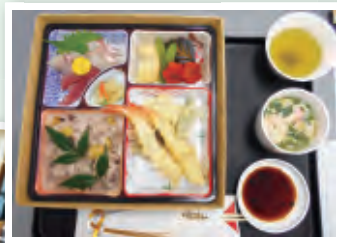
3回目となる今年も、たくさんのご来賓の皆様、ご家族様にご出席いただき、盛大で和やかな雰囲気の中、式典を執り行うことができました。

第1部の式典では、米寿の方、100歳の方、101歳以上の方への記念品の贈呈がありました。米寿の方は4名、100歳の方は1名、101歳以上の方は2名いらっしゃいました。

入居者代表の謝辞として、今年米寿を迎えられた田村鈴枝様よりお言葉をいただきました。マイクを通して「これからも元気に長生きしたいと思います。どうもありがとうございます。」とおっしゃられ、会場は大きな拍手に包まれとても和やかな雰囲気になりました。

第2部は、各ユニットにて茶話会を行いました。内容は、喫茶店風茶話会、出店風茶話会、琴修会京都真琴会の皆様による大正琴演奏会、ご家族と一緒にベビーカーステラ作り、豪華景品くじ引きと合唱、とユニットごとに違った内容で楽しんでいただきました。琴修会京都真琴会の皆様による大正琴で奏でられる「荒城の月」に「涙がでるわあ」と感動されているご利用者もいらっしゃいました。ご家族様と一緒にゆっくりとした時間を過ごしていただけたかと思えます。

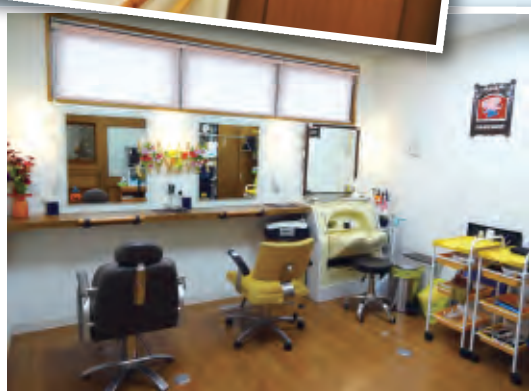
これからもご利用者様にお元気で楽しくお過ごしいただけるよう、職員一同日々一生懸命務めさせていただきます。



やすらの旋風

●ちよきぞう

皆さんは「移動理美容車のちよきぞう」をご存知かと思いますが、やすらの旋風のちよきぞうをご存知でしょうか？外観からは判りませんが、建物内に店舗の「ちよきぞう」があるのです。なぜ外観から判るようにしていないのか？それはやすら苑とやすらの旋風(リハビリ道場やショートステイやすらいる等)のご利用者専用理美容室だからです。やすら苑からは月1回約20名のご利用者が、そしてリハビリ道場からは月3回、こちらでも約20名の方が利用していただきます。偶数月と奇数月とで利用曜日を変える事で、すべての曜日のご利用者を利用して頂けるようになっております。また、「ショートステイやすらいる」をご利用の方や「やすらの詩」のご入居者から依頼があれば、出来る限りご希望に添えるようにと考えております。普段、ちよきぞうスタッフは朝から夕方まで出払っている事が多いのですが、まれに時間が空く事もありますので希望される方は職員へ声を掛けてみてください。くれぐれも「施設利用者専用」ですのであしからずご了承ください。



ワークセンター 花音

△縁の下の力持ちとして、365日頑張っています!!
 ～2年と6ヶ月経った厨房班より～

○男性利用者が2名増えました

「やすら苑」の厨房を使わせて頂き、「やすら苑」と「やすらの旋風^{かせ}」の食事の下ごしらえを頑張っています。利用者も当初より2名増え、今では6名となりました。また当初に比べ、野菜の切り方も丁寧かつ早く出来るようになりました。5ヶ所のユニットへの振り分け作業は、食材の量を何度も確認しながら、数を間違える事なく出来るようになりました。



清潔で使いやすい厨房です



計量間違えないようにしなくっちゃ

○優しい言葉をありがとうございます

平均すると、毎日朝食60食、昼食115食、夕食60食を作っています。食材をカートに乗せて「やすら苑」をはじめデイサービスやショートステイへ運んで行くと、ご利用者や職員さんから「ありがとう」「また明日も来てね」と優しい言葉を頂き、それがとっても励みになりました。作業が頑張れます。



やすら苑さん こんにちは



応援団に配達中



三井健史さんに寄せて

特別養護老人ホームやすら苑
 施設長 土居正志

去る9月1日、丹後福祉応援団 理事長の三井健史さんが急逝されました。平成13年に丹後福祉応援団を創設し、高齢者に限らず障害者や様々な方たちのニーズに対応する事業を次々と展開され、太く太く駆け抜けて逝かれました。

三井さんとは平成5年から4年間、与謝の園にて、彼は特養の主任生活相談員、私は在宅介護支援センターの主任という立場で一緒に仕事をさせていただきました。緊急のショートステイに柔軟に対応したこと、独居の方の食生活を支援するために毎日型の配食サービスを町事業として始めたこと、ケアマネジメントの先駆けとなる福祉サービス総合登録制度を当時の与謝郡4町で立ち上げたこと、・・・懐かしく思い出すとともに、20年前の動きが、町内の多くの福祉介護事業者の皆様によって、今に綿々となつがっていると考えています。

「職場は別々になるが、地域福祉の水準を一緒に上げていこう」、私が虹ヶ丘立ち上げのために退職する段階で二人で確認しあったことが、やすらの里での実践に結実し、立ち上げのご苦勞を乗り越えてやっと本当にこれからという段階でした。残念です。

三井さんと思いを同じくしてきた多くの方たちと共に、与謝野町の福祉のためにできる限りのことをしていきたいと思っています。

サテライトみのり

「温かいお言葉にささえられて」

今回は、訪問活動の中でご利用者やそのご家族の方々から頂いたお言葉を紹介します。

退院して家に帰って来た時の母の嬉しそうな顔が今でも忘れられません。皆様には色んな事で助けて頂きました。夜間にお呼びした時も嫌な顔せず来て下さいました。オムツ替えが上手く出来ないときも些細な事にもかかわらず「困った事があつたら何でも言って下さい」と言って下さいました。日を追うごとに点滴の針が入らなくなっていくにもかかわらず、苦心しながら最後まで続けて下さいました。皆様の温かい言葉と熱心なお仕事ぶりがどれほど心強かったか…。1年間、母の介護が続けられたのは皆様のお力あってこそです。これからも毎日お忙しいでしょうが在宅で介護されている地域の方々のために頑張ってください。

大変お世話になりました。どうかこれからも私のことを思い出してください。私もいつも看護師さんの事を思いだしております。

今日もよい天気です雲ひとつない空をみていたらどこかの立派なくるまがあがってきて止まったどこのお客さんかと思っていたら左の方で「こんにちは」とこえがした
〇〇さんだ でもちょっとちがう 今日の〇〇さんは立派に見える
きらりきらりと輝いている
いつまでもかがやけ〇〇さん 病人のためにステーションのためにも元気で輝け
〇〇さん頑張れ



ナースステーションの方にお会いして本当に良かったと思っています。最初の訪問の時から皆さんの優しさと励ましを与えてくださいました。お付き合いが続くにつれて一層信頼と感謝を深めています。

- ・ ストレスを みんなはきだす金曜日 大きな声の 笑いを残して
- ・ わがままも グチもみんな受け止めて 笑いに変えて 帰る看護師
- ・ 思い出は いつも笑って励まして たえる事なき 笑顔の一夜

このような温かいお言葉を頂けた事は、私たちの訪問看護の活動や生活での励みになっております。また、療養生活をサポートする役目ではありますが、逆に私たちが長年の生活の知恵などを教えて頂く事も有り貴重な財産となっております。
訪問看護の活動の中で、療養されている方々が温かい気持ちで穏やかに過ごされていることは何よりも嬉しいことです。これからもご利用者やご家族の皆様に温かい気持ちを抱いて頂けるように、笑顔と思いやりの心を持って訪問をしていきたいと思っております。

自分の思うように介護が出来て家で看取れてよかった。自宅で看取りたいと思っても1人ではできなかったと思う。
心ゆらぐのを助けてもらった。不安な夜に電話をかけたらきてもらえて安心できた。
もっと、もっとみんなに訪問看護を知ってほしい 私が悪くなくても自宅で最後まですごしたいと思う。

地域共生型福祉施設 やすらの里

〒629-2403 京都府与謝郡与謝野町字加悦 802 番地 7

社会福祉法人与謝郡福祉会 特別養護老人ホームやすら苑
施設長 土居正志
☎ 0772-43-2500 Fax0772-43-2501

特定非営利活動法人丹後福祉応援団 在宅複合型施設やすらの旋風
理事長 三井真里
☎ 0772-44-1122 Fax 0772-44-1155

社会福祉法人よさのうみ福祉会 ワークセンター花音
管理者 平井弘美
☎ 0772-44-0022 Fax 0772-44-2022

京都府看護協会天の橋立訪問看護ステーション サテライトみのり
管理者 三宅佳代子
☎ 0772-43-0225 Fax 0772-42-0226



編集後記

早いもので「やすらの里だより」も第4号を迎えることができました。暑い夏も過ぎ、秋を感じる今日この頃です。季節も変わり、町の景色も変わり、人も変わります。変わることを前向きに、変わってしまったも忘れずに、そんなやすらの里に今日も思い出が刻まれますように…。第5号は年明けに予定しています。どうぞよろしくお祈りします。 広報委員 Y.T

